

2. ゆめネットワークパネルディスカッション

「地域で学び・育つ～男女共同参画の意識～」

子どもたちが男女共同参画の意識を学び、育つのは学校だけではありません。彼ら、彼女らを取り巻く家庭や地域の大人の言動も大きな影響を与えます。データと様々な立場からの発表を基に、“人育ち”のこれからの10年を考えました。

○日時 11月7日(土)・14:00～15:30(開場 13:30)

○場所 生涯学習センター4階講座室1

○参加者 48人

○託児 2人

○内容

14:00 開会

14:10 問題提起と発表

問題提起者：倉敷伸子さん(四国学院大学 教授)

発表者：小川忠司さん(丸亀市学校教育課長)

秋山いとこさん(岡田小学校生活支援員)

青井静さん(香川県家庭教育推進専門員)

渡辺圭一さん(四国化成労働組合連合会 事務局長)

15:15 会場からの質問とまとめ

倉敷さんより、ジェンダー・イコールの意識と教育の関わりを説明していただき、意識は変化しているが、環境の変化が追いついていないという実情と支援制度の不備などについて問題提起していただく。その問題提起を受けて、子どもの教育に関する学校の立場として小川さんより、家庭の立場として秋山さんより、地域の立場として青井さんより、企業の立場として渡辺さんより、男女共同参画の意識がどのように変わってきたか、あるいは変わっていないのかなどについて発表していただく。そして、10年後の意識改革を期待し、今後それぞれの立場で取り組めることは何かを、参加者とともに探る。

15:30 閉会

○主催 ゆめネットワーク

(1) パネルディスカッション記録

倉敷さんの資料

丸亀市で2015年11月7日に男女共同参画を考える

2015.11.7. 四国学院大学 倉敷伸子

I 2015年とは

男女雇用機会均等法制定から30年

職場における男女の差別（募集・採用・昇給・昇進・教育訓練・定年・退職・解雇）禁止
内閣府男女共同参画計画から15年

固定化された男女別役割を解き、多様なライフスタイルを認める

職場のセクシャルハラスメントや家庭での夫の暴力をなくす

政策決定の場への女性の参加を拡大する など

丸亀市男女共同参画都市宣言から10年

* 共同参画施策の背景

日本の高度経済成長 ⇒ 新たな家族モデルを浸透させる

夫は会社に終身雇用され、家族を扶養

妻は結婚退職して家事・育児の主宰者となる

家族のかたちは核家族世帯が中心

・主婦と会社が従来の地域共同体の役割を代替

(⇔行政を通した所得の再配分)

↓

このシステムの問題点

女性の社会的自立を阻む / 女性による社会的貢献を阻む

男女雇用機会均等法制定から30年

内閣府男女共同参画計画から15年

丸亀市男女共同参画都市宣言から10年

→ この流れのなかで・

何が変わったか / 何が変わらなかったか / 何が新たな問題として起きているか

II 丸亀市市民の現在

① 家族のありかた

・世帯のかたち

・核家族世帯 1990年63% → 2010年60%

・・・世帯構成はあまり変わらず

しかし・・・ 単独世帯数・割合の大幅な増加

	世帯数		
	核家族世帯	その他の親族世帯	単独世帯
1990年	15514	4393	4819
2000年	18216	3802	7390
2010年	25534	4821	12217
	総世帯に占める割合		
	核家族世帯	その他の親族世帯	単独世帯
1990年	62.6%	17.7%	19.5%
2000年	61.7%	12.9%	25.0%
2010年	59.5%	11.2%	28.5%

・結婚するのは当たり前か

丸亀市民の有配偶率

1990年男性 64%女性 61% → 2010年男性 61%女性 58%

・・・減少は若干

しかし・・・有配偶率を支えているのは 50 歳代以降の人口

「20 歳代に結婚→新家庭」はもはや主流でない

② 生活と仕事

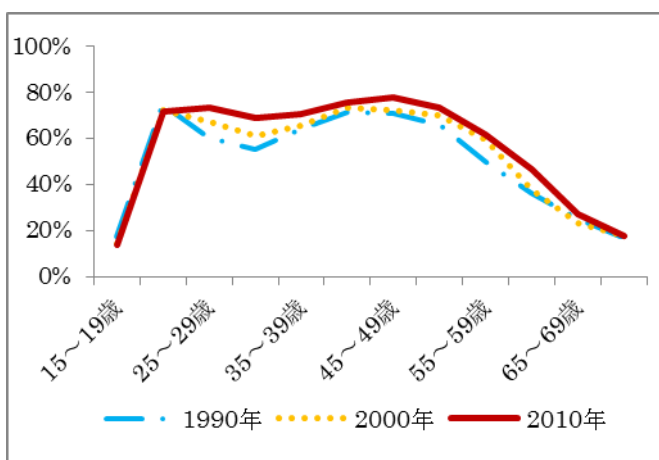
・どのくらいの人が就業（求職含む）しているのか

丸亀市民の労働力率（15 歳以上人口の中の割合）

1990年男性 76%女性 48% → 2010年男性 70%女性 49%

・・・女性の労働力率はほとんど変わらず

しかし・・・結婚・出産・育児期は就業しないというパターンが消滅



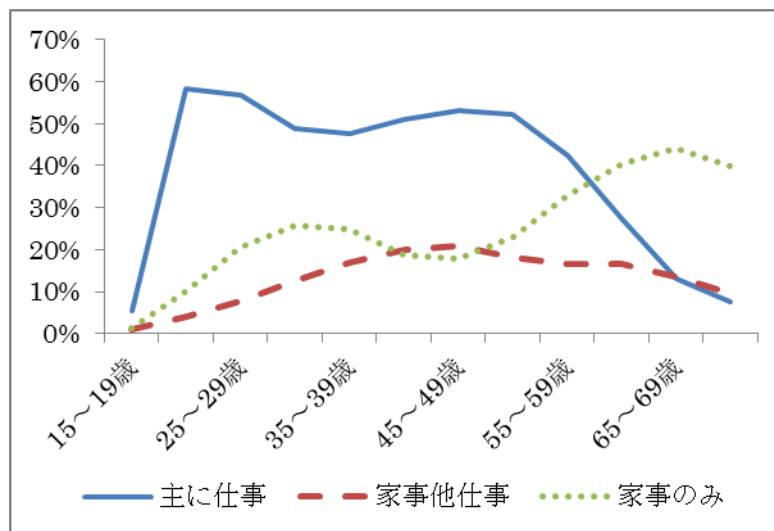
・どのような職業についているのか

・・・男性は生産工程、女性は事務に従業する者がそれぞれ 4 分の 1

男性 28569 人	女性 22412 人
1 生産工程従事者	1 事務従事者
2 販売従事者	2 専門的・技術的職業従事者
3 専門的・技術的職業従事者	3 サービス職業従事者
4 事務従事者	4 販売従事者
5 建設・採掘従事者	5 生産工程従事者

・ 女性は生活の中に仕事をどう位置付けているのか

- ・・・ 選択肢：主に仕事をしている/家事の他仕事をしている/家事に専念している
- 30歳代前半で「主に仕事」を選択した人の割合 1990年 37% →2010年 49%



③ 仕事の現場

・ どのような雇われ方をしているのか

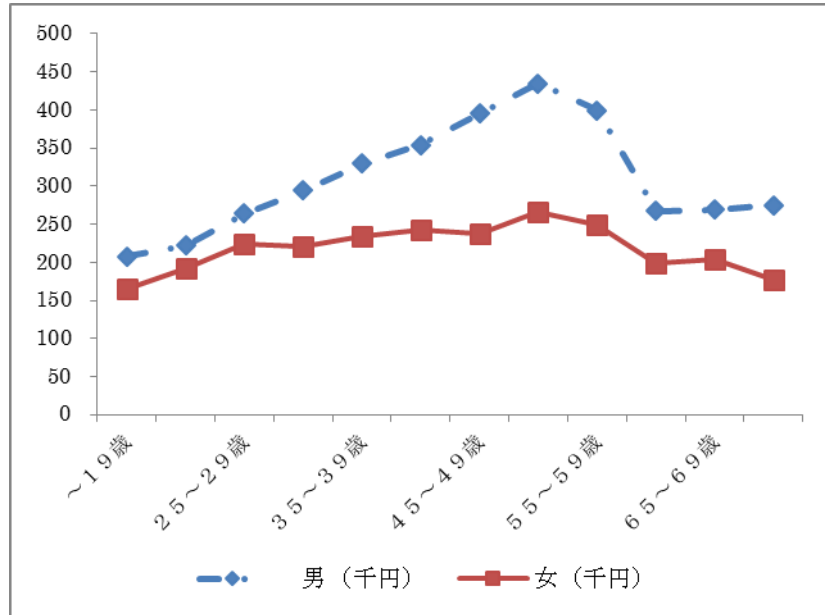
	正規職員	派遣労働者	パートアルバイト
男性	67.2%	1.8%	9.2%
(他に業主 13% 役員 7%など)			
女性	40.9%	2.4%	40.1%
(他に家族従業者 6%など)			

・ 職場での待遇はどうか

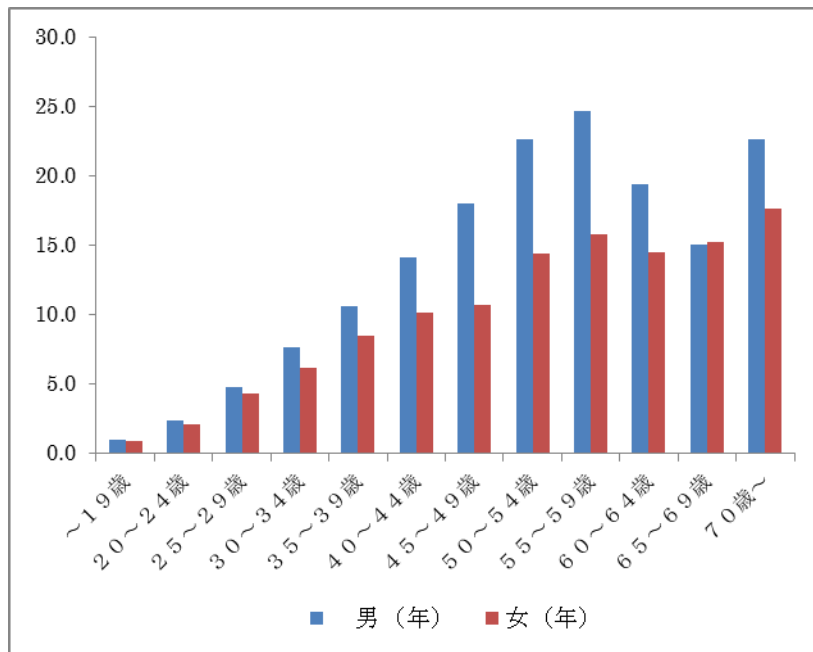
2014年香川県従業員10人以上の企業 一般労働者

(厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」)

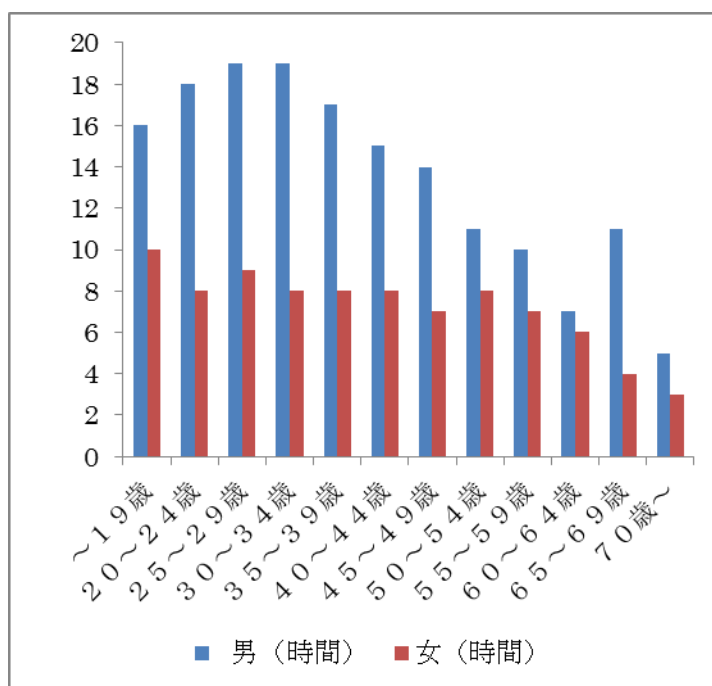
男女別 現金給与額



男女別 勤続年数



男女別 超過実労働時間



④ 生活の現場

- ・子ども（就学前）の子育ての主体は誰か

(丸亀市「子育て支援に関するアンケート調査」2014年)

	父母ともに	主に母親	主に父親
フルタイム	67.2%	29.3%	0.2%
フル×パート	60.8%	38.3%	0.0%
どちらか家事専業	50.8%	48.1%	0.2%
そのほか	85.0%	15.0%	0.0%

- ・子ども(就学前)が病気で幼稚園・保育園に行けない時の対処

(丸亀市「子育て支援に関するアンケート調査」2014年)

	全体	子ども2歳時
施設利用	7.3%	8.0%
父親が休んだ	14.1%	17.2%
母親が休んだ	66.3%	78.8%
親族に子どもを見てもらった	42.6%	53.6%

⑤ 変わったこと／変わらないこと／新たな問題

大きな変化・・男女別規範の強制力（←代わりに自己責任論の登場）

家族のかたち

女性にとっての仕事の位置

小さな変化・・就業形態や待遇についての男女の格差

育児責任に対する父母の格差

➡ 両者の不均衡が、新たな問題を輩出

特に母子世帯へのしわ寄せが深刻化（⇒子どもの貧困へ）

* 的外れな自己（親）責任論

就労継続が可能な保育環境×子育てに適した生活状況×子どもの養育に足る収入獲得

→ひとり親家庭において、この3つを並び立たせることは相当に困難

丸亀市の場合

20歳未満の子ども100人のなかにひとり親（母親）世帯の子どもがいる比率は
2000年7.7%から、2010年10.5%（全国9.0%）に増加

Ⅲ 男女共同参画と「地域で学び・育つ」 2つの現在の意味

◎ 教育の力は大きい！

教育の取り組み → 小川忠司報告へ

◎ 家族に丸投げしても解決できない！

地域の取り組み → 青井静報告へ

企業の取り組み → 渡辺圭一報告へ

母親の働きをどう支えるか → 秋山いところ報告へ

* 本報告の統計数値のなかで特に出典表記がないものは、『国勢調査報告書』各年度から作成したものである。

* 丸亀市は2005年3月に大合併を行った。本報告で示した数値は調査時点でのそれぞれの市域を対象とするものであり、2005年以前と以後の数値に、地域としての連続性を読み込むことはできない。

丸亀市合併・男女共同参画宣言
(10周年事業)

「地域で学び・育つ
～男女共同参画の意識～ 企業編」

四国化成労働組合連合会 事務局長
渡辺圭一

1

四国化成工業株式会社

- ・商号 / 四国化成工業株式会社
- ・本社 / 丸亀市土器町東八丁目
- ・設立 / 昭和22年10月
- ・資本金 / 68億
- ・従業員数 / 565名(出向者除く)
- ・事業内容 / 化学品の中間材料の製造・販売
建材の製造・販売
- ・売上高 / 430億円 (2015年3月期)
- ・経常利益 / 59億円 (2015年3月期)

2

事業紹介 ～身近なところに「四国化成」～

「化学品」と「建材」2つの事業で、世界中の人々の快適な暮らしを支えています。

たとえば 家庭で... オフィスや工場で... 街中で... 学校で...

http://www.shikoku.co.jp/recruit/

3

事業紹介 ～化学品事業～

化学品ポイント!

- 身近な商品の中間材料
- 業界でトップクラスのシェア

世界トップシェア

耐熱型水溶性プレフラックス
タフエース

プリント配線板の
表面処理剤

世界シェア2位

不溶性硫黄
ミュークロン

ラジアルタイヤの
材料

国内トップシェア

プール用殺菌・消毒剤
ネオクロール

プールの
殺菌・消毒剤

Copyright © SHIKOKU CHEMICALS CORPORATION
http://www.shikoku.co.jp/recruit/

4

事業紹介 ～建材事業～

建材ポイント!

- “機能美”に優れた商品で、暮らしを快適に。
- 四国化成 シールで発見!

国内トップシェア

アーチウェイ

公共空間を彩る
景観エクステリア

業界初

アコーディオン門扉

伸縮構造の門扉

国内トップシェア

けいそう壁

室内用の塗り壁

Copyright © SHIKOKU CHEMICALS CORPORATION
http://www.shikoku.co.jp/recruit/

5

- ・1991年 四国化成工業株式会社に入社
- ・徳島県に単身赴任中 (妻・子供達は千葉県)

現在の業務

会社側 (人事部付) 1.0日/月	労働組合側 1.0日/月
四国化成工業(株)徳島工場	四国化成労働組合連合会 事務局長
↓	↓
○徳島工場内の総務的な仕事など (男性○名、女性○名の職場)	○会社との労使交渉の窓口 ○労働組合員からの相談窓口 ○OUAセンター 製造産業部門 男女共同参画推進委員

6

男女共同参画の必要性

- ・全ての労働者が、
職場における機会と処遇の均等・均衡
が保障される。
- ・全ての労働者が、
ライフステージに合わせて仕事と生活の
バランスが取れた生き方ができる。

7

現在の日本を取り巻く環境
～ 少子高齢化による労働力不足 ～

- ① 日本経済を支える人が減り、経済が低迷
- ② 納税者(年金や医療など社会保障の担い手)が
減り一人ひとりの負担が増える
- ③ 誰もが『育児』や『介護』など時間制約のある
働き方になる



8

現在の日本を取り巻く環境

～ 経済のグローバル化で求められるダイバーシティ
(多様化) への対応 ～

- ① 消費者としても労働者としても、ニーズや価値観が多様化している
- ② 日本の硬直化した男性社員中心の働き方は限界をむかえる
- ③ 消費者は女性が多いのに、企画する人や造り手は男性ばかり？

9

打開策の一つが「男女共同参画」!

男性も女性もきちんと「能力が発揮」でき
「仕事」と「生活」のバランスが取れる社会
が、これからの丸亀市に必要です。

10

政府や企業の動き

◆政府は？

- ① 民主党政権時の2012年に、女性が活躍することで経済を活性化させるという方針
～「働く『なでこ』大作戦」～を策定
- ② 現在の安部内閣でも「女性活躍」は成長戦略の中核

◆企業は？

- ① 経済同友会は、「2020年までに女性管理職30%以上」という『経営者行動宣言』を作成。
- ② 経団連は「女性の活躍支援・推進に関する取組み事例集」を発行し、各企業の努力を促す

11

現実はどう？

1 職場の男女平等



12

1. 職場の男女平等

<例: お茶>

- 2005年〔過去〕
 - 事業所(本社)に給茶器が設置されていたが、定期清掃は女性だけの当番制 ※私も定期清掃していました。
 - 数人の男性に、声掛けしたものの返事だけ・・・。
- 2015年〔現在〕
 - 事業所(本社) 給茶器の定期清掃は、清掃会社に委託し女性だけの当番制ではなくなった
 - 私の勤務する徳島工場でも、お茶は、セルフサービス

13

現実はどう？

2 子育てと仕事の両立



14

2. 子育てと仕事の両立

- 2005年〔過去〕
 - 育児休業制度(1992年導入)が浸透して相当期間経過。育児休業を取得された方は、職場に復帰して両立。(直ぐに、保育所など、預かってくれる場所が見つかった)
- 2015年〔現在〕
 - 育児休業を取得された方は、職場に復帰して両立(直ぐに、子供を預かってくれるところが見つからない)
 - ↓
 - 育児休業後、働かれる女性が増えたから？

15

現実はどう？

3 長時間労働



16

3. 長時間労働

- 2005年〔過去〕
 - 男性、女性の仕事の役割がはっきりとしており、残業が伴う仕事は男性が多く受け持っていた傾向
 - 育児されている女性は、段取りよく仕事をこなし定時に仕事を終えて帰宅。
- 2015年〔現在〕
 - 男性、女性の仕事の役割でなく、総合職、一般職で役割分担している。例を挙げると、経理部などの会社の決算期などは総合職に所属する人は「**季節労働者**」
 - 育児されている女性は、段取りよく仕事をこなし定時に仕事を終えて帰宅。

17

現実はどう？

4 女性に偏る家庭責任



仕事と両立したいけれど負担が大きすぎて...

18

4. 女性に偏る家庭責任

<例：渡辺家>

- 2005年〔過去〕
 - 夫婦共働きの妻。
食事は、母親が作ってくれていたが、洗濯と子供達の育児は妻に任せきっていた。
- 2015年〔現在〕
 - 2009年の千葉県への転勤を機に、妻への負担が大きいくことにやっと気づき、積極的に家事・育児に参画。

19

現実はどう？

5 男性ばかりの管理職



働く女性の悩み 分かってもらえるのか不安...

20

5. 男性ばかりの管理職

<相談>

- 2005年〔過去〕
 - 当時、女性の管理職は、1名と係長クラスは、7名
- 2015年〔現在〕
 - 私の職場は、男性〇名、女性〇名であり、半年に1回全員と仕事の振り返り面接を行っているが私が男性であるため、仕事以外の話の時にどこまで相談してきてくれているのかわからない。
 - 現在の女性管理職は、3名と係長クラス、11名

21

10年後の男女共同参画

- ① 弊社の場合、**性別**による仕事の役割分担
↓
総合・一般職の枠組みで仕事の役割分担
- ② 女性に偏る家庭責任
↓
男性は、長時間労働にならないように気をつけ家事・育児に積極的に参画する。
(男性も、仕事を早く片付けて家に帰る。)

22

ご清聴ありがとうございました。

23

女性の地域活動参加 について

2015.11.7

家庭教育推進専門員
青井 静



1

自分がかかわってきた地域の活動

- 図書館ボランティア
- PTA活動
- 学校支援ボランティア
- 地域のチカラ
- 放課後子ども教室
- コーディネーター事業
- NPO法人



2

- 子どものために何かしたいと
考えている人はたくさんいる
- 自分の力を何かの形で、役立てたい
(キャリア、特技、趣味)
と思っている人もたくさんいる
- リタイア後の人生を地域活動で
活かしたいと考える人もいる
…なかなか実行できない



3

・男性なら許されて、女性なら許されないこと

『おかあさん』に望むこと

望まれていること

「自分の子どもは、ほっといて…」

という「目」が苦しい、うしろめたい

・その逆もまた・・・

男性の自殺は女性の約3倍

男性が背負わされているもの

仕事を第一に。

稼がない人がボランティアや

地域の活動なんて…！！

という、家族や地域の「目」がづらい…



4

～ライフサイクルの中で地域と のかかわり方を考える～

- 子育て
- 仕事
- 介護

本当は「人」として
しっかりかかわるもの

味わいながら地域の活動に

気軽に参加できるためには・・・？

まわりの「人」たちの
思いやりと手助け「お互いさま」の心



5

～まとめ～

「ありがとう～♪」
「おつかれさま～(*^。^*)」

地域で活動したり！

仕事にしっかり取り組んだりするためには！

《家庭・地域の理解》

《参加しやすい活動スタイルの工夫》

男だから女だから・・・

こうあるべき、こうするべき・・・

強要しない社会のほうが生きやすい。

認め合い助け合う世の中が幸せを育む。



6

小川さんの内容

- ・最近学校ではジェンダーにあまりとらわれていないように感じる。例えば、「〇〇さん」と男女関係なく呼ぶ。ランドセルもカラフルになった。女の子の児童・生徒会長もいる。
- ・幼稚園では「起こったできごとに沿って」指導している。
例えば、色のイメージ、劇やごっこ遊びなどの役割のイメージを取り払っていく。
(赤ずきんちゃん役を男の子が演じたい→赤マントマンとネーミングして演じる)
- ・小学校では、「生活の中、身の回りの事象」から指導している。
固定的にならず多様なイメージがもてるように、そして自分らしく。
家事や職業などのイメージも決め付けない。
例えば、女性の白バイ隊員、男性の保育士をゲストティーチャーに招いて授業を実施。
- ・中学校では「現実で率直な意見交換」をしている。
例えば、丸亀市副市長の育休取得について授業で話し合いを実施。
- ・子どもたちが固定的なイメージによって夢をあきらめる事がないよう、教師がおかしいと気付く目を持つ事が大切である。

秋山さんの内容

- ・母子家庭でダブルワークをしながらの子育てだった。
- ・子どもには、積極的に外出させ、いろんな経験をさせた。(ボーイスカウト、子ども会等)
その中で地域の方が面倒を見てくれ、心配してくれた。
大きくなって「地域に恩返しをしたい」と思える人材になってほしい。
10年後、人のためにできることを喜んでできる人に育ててほしい。

(2) パネルディスカッションアンケート結果

○アンケート回収枚数 26枚 (回収率 54.1%)

○回答していただいた方について

年代 30代 4人 (15.3%) 40代 2人 (7.6%) 50代 5人 (19.2%)
60代 9人 (34.6%) 70代 6人 (23.0%)

所属 一般 9人 (34.6%)
ゆめネットワーク 17人 (65.4%)

○アンケート結果

【感想、印象に残ったこと】

- ・丸亀市の現状から、それぞれの発表者の話は良かったと思います。いろんな角度からの男女共同参画の歴史、取り組み、考えを聞くことができ、刺激になりました。
- ・未来の国を支えるのは、子どもたちです。大切な日本の宝を地域全体で育てていきたい。
- ・4人の立場の違う方々のお話はどれもよく分かるもの(年を重ねたため)でした。
- ・さまざまな分野の人によって密に掘り下げた話がとても良かった。
- ・四国化成の企業における男女共同参画の話が聞けてよかった。
- ・若い世代の意識が大きく変わってきていることを頼もしく感じると共に、自分も改める点を考えるきっかけとなりました。
- ・学校での教育や地域活動の中で、若い世代に男女共同参画の意識が広がっている実態を知ることができ、収穫があった。
- ・母子家庭の母親の子育てに対しての心情を聞くことができ、大変良かったと思いました。丸亀市のひとり親世帯が全国平均より多いのに驚きました。
- ・「男女共同参画」と意識しなくても身につけてきている子どもたちが社会に出たときのギャップに悩むことがないようにしていきましょう。
- ・男女共同参画の意識向上、改革に向けて、具体的数字を用いて分かりやすいディスカッションが進んで、極めて有意義な集まりであると感じました。しかし意識向上、改革がより必要なのは男性です。市長はもちろん、行政の部課長全員の参加を求めるべきではないですか。女性ばかりが集っても空回りしているだけに強く感じました。
- ・丸亀のひとり親(母子)の割合は全国平均より高い。10年後のために子どもに望むことは、秋山さんが言われていたように、人のためになることを喜んでしてくれる人になってほしい。女性に偏る家庭責任、男性は長時間労働にならないように。
- ・丸亀市の現状がよく分かりました。10年後どのように変わっているのか、変えていくのかは私たちの責任でもあるのですね。
- ・少しずつ進んでいるなど感じました。
- ・今はまだまだなんだと感じた。10年後はギャップの少ないようになってほしいと思う。実行していきたいと思う。
- ・若い女性のパネリストの方が実際の活動を通し

て、生の声を聞かせてくれた点がよかった。遅々とした歩みと思っていた男女共同参画だが、次第に進んでいることを知り、嬉しく思いつつ、自分にもできることを行動に移していかなければと思った。

- ・メディア等で取り上げられ、意識はしていたが、ひとり親（母親）世帯の現実と問題点は思った以上に切実だと感じた。
- ・参加できてよかったです。パネルディスカッション5人の方のお話を伺い、お子さんたちと家庭や地域との関わりの大切さを学びました。本当にありがとうございました。10年後を楽しみにしています。
- ・教育の場では、色々な改善がなされていることをはじめて知りました。母子家庭などでは、や

【今後の活動に生かそうと思ったこと、反省等】

- ・日々、生活する中で、男女共同参画を意識した働きかけを子どもたちにしていくことが、長い時間をかけてまた未来へと繋がっていくのかなと思いました。また、「子育て支援士」として利用者さんと関わったり、発信したりしていく中で、男女共同参画を意識した具体的事例を考えなければと思いました。教育現場、地域、家族、家庭、職場環境すべてにおいて親である私自身の生き方が子どもたちに与える影響は大きいのだと再確認しました。
- ・昔を振り返り、良き時代になったなと思うとともに、フルタイムで働いていたのにすべて自分1人でしていた（家事、育児他）ことに対して今更ながら夫に対して腹が立つ思いですが、帰宅後、猛反省を促したいと思います。
- ・男だから、女だからという性差の意識（性別役割分担）をなくせるよう、子育て家庭と関わっていききたい。1人の人間として大切にしたいこと、大切なことの学び合いを進めていく。
- ・仕組みや制度、周辺のサポートなど、環境によって男女共同参画に大きな影響がある。介護ス

はり女性の負担が大きいと思いました。社会がどのようにこの問題を解決していけるかが課題だと思います。

- ・全員が分かりやすく、具体的な例を挙げて話してくださり、とても理解しやすかったです。時間が短くて残念でした。男女ということを強調されずに、また「男らしさ」・「女らしさ」も全否定されずに、自由にその人自身の個性を表現できるような社会であってくれたらと思います。また一番の問題として残るのは、まだまだ個人の奥底にある色々なものに対する心の壁が大きいと感じています。

テージになると介護を受ける側の意識もその周辺環境の一部となりうる。心して意識改革したい。

- ・私は現在76歳で、中学1年生の男の子と小学2年生の女の子、年長の女の子と、3人の孫をずっとみてきました。そこで、本日の勉強会の中で小川先生の男の子、女の子と分けてしまう、というお話で心当たりが非常に多くありました。私の年齢になるとついつい“女の子のくせに”“男の子だから”と口に出てしまいます。大変反省しました。そのほか、色々な面で勉強になりました。
- ・私の頃、子育ては100%近く自分が抱え込んで夫にその機会を与えなかったと反省しています。娘夫婦は共働きですが、よく子育てには協力しているようです。
- ・私たちの年代では、夫が家事を何もできない人がいる。日常の話題で「夫が1人残ったらどうなるだろう」と心配している。若いときから男女が分担して家事をすることは、本人のためにもよいと思う。



丸亀市合併10周年記念・男女共同参画都市宣言10周年記念事業
ゆめネットワーク パネルディスカッション

男女共同参画の意識

地域で学び・育つ

ファシリテーター

倉敷伸子さん
四国学院大学 教授

発表者

香川県家庭教育推進専門員
青井静さん

岡田小学校生活支援員
秋山いところさん

小川忠司さん
丸亀市学校教育課長

渡辺圭一さん
四国化成労働組合連合会
事務局長

子どもたちが男女共同参画の意識を学び、育つのは学校だけではありません。彼ら、彼女らを取り巻く家庭や地域の大人の言動も大きな影響を与えます。データと様々な立場からの発表をもとに、“人育ち”のこれからの10年を考えます。



平成27年11月7日(土)

14:00~15:30 (13:30開場)

生涯学習センター4階・講座室1

お問い合わせ先/丸亀市人権課男女共同参画室(ゆめネットワーク事務局)

E-mail/danjo@city.marugame.lg.jp

託児申込み切/10月30日(金)

TEL 0877-24-8823 FAX 0877-23-4073